

第6節 里山・平地林・里の水辺の再生

〈主な指標と最新実績〉

ため池の保全・整備数 2地区

第1項 里山・平地林・里の水辺の整備

1 ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業（荒廃した里山・平地林の整備） 【森林保全課】

かつて、きのこや山菜、薪や炭、肥料にする落ち葉や生活用具の材料となる木材や竹など、日々の生活に必要な様々なものを、私たちは身近な里山から得ていました。

また、里山は、二次的自然として、特有の動植物の生息地となることで、生物多様性を保全する機能を担っていました。

しかし近代化が進み、電気やガスが普及し、食料や道具類はいつでも簡単に手に入る時代となった今、たとえ人家裏の雑木林や里山であっても非常に遠い存在となっています。

人の手が入らなくなった里山は、ヤブや竹、シノが繁茂し、さらに人を寄せ付けなくなります。

このような荒廃した里山は、イノシシなどの野生動物の隠れ場となり、近隣の畑や果樹園における農作物被害を拡大させています。

また、ヤブだらけの里山は、ごみが投棄されやすく、さらに見通しが悪いと防犯の面から好ましくありません。里山の保全は、生物多様性だけでなく、地域の安全安心な生活環境を維持するうえからも重要な課題です。

野生鳥獣の被害が発生する地域や、ごみの不法投棄や、見通しが悪く防犯上の問題がある地域では、2014（平成26）年度から始まった「ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業」の「荒廃した里山・平地林の整備」事業を活用し、地域住民と市町村が連携し、身近な里山や竹林の整備に取り組んでいます。

表2-4-6-1 事業の実施状況

実績	年度	H28	H29	H30	R元
市町村数		29	29	27	27
箇所数		177	214	250	274



ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業「荒廃した山村・平地林の整備」で整備した里山

2 ため池等の周辺整備 【農村整備課】

ため池は、豪雨や地震等の自然災害により崩壊した場合、農地に被害を与えるだけでなく、下流の住宅や道路などの公共施設等にも大きな被害を与えることが想定されます。

このため、県では2017（平成29）年度から県単独事業として、「防災重点ため池」に位置付けられたため池の豪雨・耐震対策工事及び老朽化等の

理由により自然災害等で崩壊の危険性があるため池の整備を行い、下流地域の安全、安心の確保を図り、景観や生態系に応じた整備を実施しています。

2019（令和元）年度は、4地区でため池の堤体改修や保護、洪水吐・取水施設の改修を実施し、2地区の対策工事が完了しました。また、更なる整備に向けて2地区の調査と計画作成を行いました。

3 多々良沼公園における自然再生活動の推進 【都市計画課】

多々良沼及び城沼周辺において、沼に流入する河川の水質等の改善や絶滅種の復活及び減少しつつある希少種の復活を目指し、失われてしまった自然の再生・保全に向けて、2010（平成22）年4月に地域住民、NPO、学識経験者、地方公共団体、関係行政機関など多様な主体により「多々良沼・城沼自然再生協議会」を設立しました。

2011（平成23）年5月には、協議会の目標となる全体構想を策定し、「水質」「生態系」「親水性」の目標を掲げました。2014（平成26）年1月には、目標達成に向け、それぞれの主体が取り組みやすいよう、協議会としての実施計画を策定し、その後は実施計画に基づき、それぞれの目標に沿った様々な事業を展開しています。

多々良沼においては、例年ヨシ焼きを実施しています。枯れたヨシを焼くことは、春に多くの植物に対して芽生えの機会を与え、豊かな湿地環境の保全に繋がります。2019（令和元）年度のヨシ焼きは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施することができませんでしたが、ヨシ焼きに先立って実施するヨシ刈りについては、「多々良沼自然公園を愛する会」及び多々良沼

公園の指定管理者により、一部実施することができました。

ほかには、植物・水質等のモニタリング調査を例年どおり実施し、外来種駆除にも取り組みました。

これからも、一人でも多くの参加者とともに、自然再生に向けた取組を積極的に進めて参ります。

「多々良沼・城沼自然再生協議会」ホームページ
アドレス

<http://www.kendoseibi.pref.gunma.jp/chiiki/tatebayashi/tatarajou/>



例年の多々良沼ヨシ焼きの様子